

ただいま  
活動中

# 四日市海洋少年団

## 海を“人間づくり”の場として

### 海が育てる助け合いの心

ゲーム・テレビ・ビデオ…子どもにとって手軽に1人でも遊ぶことができる便利な遊び道具が、今や家の中に氾濫しています。しかし、その便利さがかえって、子どもが集団の中で工夫して遊ぶ機会を減らしてきているようにも思えます。そこで今回は、広い海を教室にいろんな年齢の子ども達との集団行動をおし“人間づくり”をめざす、四日市海洋少年団を紹介します。

私が訪ねた1月24日は、四日市旧港で、カッター訓練を行っていました。カッターとは6人で漕ぐボートのことで、海洋少年団の主な活動の一つとなっています。この日は小学1年生から高校1年生まで17名の子どもが参加し、班に分かれ1艇の船に順番に乗りました。最初の班が港内をぐるりと回ってくると、メンバーの交替です。待機中の子ども達は、高校生の号令で整列し船の前まで進み、すばやく入れ替わります。そして最年少の子が船を下りようとした時、近くにいた年長の子が、手をかして引っ張りあげている姿が目に入りました。年長者の指示にすばやく行動し、年少者にはそっと手助けをする—最近ではあまり見かけなくなったそんな光景が、ここでは、気負わず自然に行われていました。

### 集団の中で生かす自分らしさ

「海洋少年団はいつも海という大きな自然と向かいあっています。海と比べればひとりの



昭和35年に結団。カッター・水泳・手旗信号・海洋訓練・キャンプ等、海を訓練の場として青少年の健全育成をめざす。

対象：小学1年生～高校3年生  
活動日：月2～3回(土・日)  
活動費：入団金 4000円  
          団費 12000円/年  
          装備費 18000円程度  
          白菊会費 2000円/年  
          (保護者の会)

連絡先：0593-21-3325(団長・伊藤)

人間はとても小さな存在であることを体験をとおして知ること、助け合いの心が自然と育ってくるのだと思います。その助け合いの心をどう行動に表していくのか。個性の時代といわれていますが、好き勝手にやっているのは、自分らしさも生かされません。集団の中で自分をどう生かしていくのか？ その方法を見つけることが、今の子ども達には必要です。子ども達に対する思いを語る事務局長・鈴木秀幸さんの説明によると、ここでは年少者は年長者に従い、年長者は、責任を持って年少者の面倒を見ることになっているのだそうです。

「自由時間にひとりで遊んでいる子に声をかけたり、昔自分も難しいと思った手旗信号を、小さい子達にどう教えたらわかりやすいか考えたり…」。高校生になり、責任ある立場になって、今まで気づかなかったことに目が配れるようになったと話す団員斎木君・橋本君の思いやりある言葉に、「年齢に応じ、それぞれの役割をしっかり経験し、いろんな年齢の子ども達の中でもまれることで、自分らしさを生かした良きリーダーに育ってほしいですね」と鈴木さんが語る海洋少年団の精神が、息づいていることを感じました。



カッターは漕ぎ手の呼吸が一つにならないと上手く進まないそうですが、上手くいった時の爽快感はたまらんとします。